

チャバネゴキブリ

特徴と生態

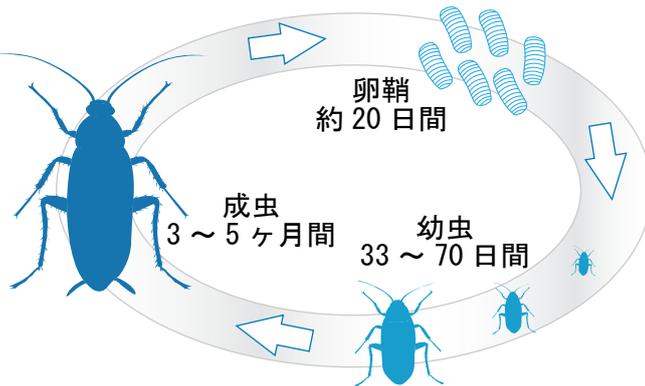


- 成虫体長…10～15 mm
体色…つやのある黄褐色、胸部：2本太く黒い帯
- 幼虫体色…体の縁と中央は黄白色で他所は黒色
- 卵鞘体長…7～8 mm
体色…橙黄褐色
- 寒さに弱く、20℃以下では活動できませんが、暖房設備のある暖かい場所では1年中、卵・幼虫・成虫が見られます。特に、残渣のある箇所では飛躍的に増加します。卵の期間は20日位ですが、1つの卵鞘から平均40匹が生まれます。生育期間は夏ならば2～3ヶ月で、幼虫は5～6回脱皮して成虫となります。成虫の寿命は3～5か月に及びます。オスに比べメスの横幅が太いのが特徴です。森林性のモリチャバネゴキブリと違い、自由に飛翔することは出来ません。

分布と発生場所

- 世界的にもっとも数の多い種類で屋内に分布する代表的なゴキブリで、日本では江戸時代末期には発見されていたそうです。建造物に棲息し特に、飲食店舗・食品売り場・ホテル・病院等に多く、新幹線・船舶等でも見られます。厨房内など20℃以上の温度の高い箇所であれば日本全土1年中見られますが、南西諸島などの亜熱帯域ではかえって少ないです。

○ サイクル図



○ 分布図



○ 発生時期



被害

- 不快感や恐怖感、嫌悪感を与えるだけでなく、食品などへの異物混入事故や、体表・脚・排泄物などに付着している食中毒菌及び病原微生物媒介等の危険性があります。小型電気機器類を好み、侵入して故障の原因となることも少なくありません。

駆除

- 予防法としてはエサになる残飯などを片づけ衛生的な環境を維持することです。発生した場合は、ガス台の下、コンロ周り、冷蔵庫の裏のモーター部分などをしっかり清掃して下さい。発生状況に合わせて粘着シートや薬剤（市販のベイト剤）の使用をおすすめしますが、定期的に発生するようでしたら、駆除会社に依頼されてみてはいかがでしょうか？